

えんだより

2022年

9月号



NO.198

シャローム三育保育

9月1日は防災の日。今年も大雨等による災害が発生しています。技術の進歩で的確に気象情報を得ることができますが天気を変えることはできません。実際に避難行動を取るのは皆さん自身です。警報や避難に関する情報が発信されている時は、迷わず身を守る行動を取ってください。避難行動に“早すぎる”ことはありません。

園長 村上 渉

避難訓練の様子も配信いたしますのでご覧ください。



今月の予定

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5 礼拝 英語教室	6 体操教室	7	8	9	10
11	12 礼拝 英語教室	13 体操教室	14 避難訓練	15	16 秋祭り	17
18	19 敬老の日	20 体操教室	21	22	23 秋分の日	24 布団乾燥
25	26 礼拝 英語教室	27 体操教室	28 誕生会	29	30 保育園職員会	

「生きる事を幸せと言える子どもに」

先月の礼拝の時間に、戦争で家族を失った戦災孤児のお話をしました。その子は空襲で家族を亡くし、孤児院に来るまでは駅の地下道で生活し、食べることもままならず、話すこともできなくなっていました。施設に入ってすぐはみんなと食事をするのもできず、夜中にこっそり盗み食いをしていましたが、寮母や施設の子どもたちとのあたたかいふれあいの中で、徐々に心を開いていき、最後には笑顔でみんなとご飯を食べることができるようになるお話です。

子どもたちには少し難しかったかもしれませんが、日本でも戦争でたくさんの方が亡くなったこと。お話のような子どもがたくさんいたこと。戦争は絶対にしてはいけないことを伝えました。

死生観を子どもたちに語るのはまだ早いと思うかもしれませんが、日常の中でも事件や事故のニュースを見ることもありますし、飼っている虫や動物が死んでしまうことも、近親者とのお別れもあるでしょう。年齢に関係なく誰もが避けて通ることのできないことです。子どもが感じた悲しい思いや心の痛みに耳を傾け、愛情を持って受け止めることで気持ち整理され、前を向いて生きることへの肯定感に繋がります。

先月に続いて戦争・平和に関連した内容になりました。改めて今の生活がすべて奪われてしまう有事が起きない事を願います。そして、生きていることがどれほどの奇跡であるか。子どもたちにも家族の皆さまにも、生きている幸せを感じる人生を送ってほしいと思います。

最後に「物語を持ち、愛されて育った子どもは、生きる事を喜ぶ子になるでしょう」「生きることを喜ぶ子は、平和を望むに違いありません」

保育通信9月号特集「平和を考える」より

園長

